

## 北部融資40%増 沖縄公庫が報告

16年度上半期も好調

【北部】沖縄振興開発金融公庫は9日、名護市内のホテルで「北部経済チバリョー懇談会」を開いた。北部支店の



沖縄公庫が北部地域の経済人らを招いて開いた懇談会  
11月9日、名護市・ホテルゆがふいんおきなわ

2015年度融資実績は設備資金が伸びて前年度比40・4%増の80億1400万円となり、16年度上半期も前年同期を上回るなど、好調ぶりを報告した。

懇談会は公庫が支店ごとに開いていて、北部地域の経済人ら11人が出席した。

プロ野球日本ハムの名護キャンプが球場改築のため18、19の2年間実施されないことについて、名護市商工会の金城哲成会長は「いろいろな影響、資金需要が出る」と懸念。キャンプは昨年から短縮されていて、市観光協会の前田裕子理事長も「すでに明暗が分かれている」と述べた。

和風旅館、高糖度のパイン生産など、新規事業の取り組みも報告された。

公庫の川上好久理事長は「経済は絶好調で、バブル期に比べて実需がある。収益性が見込める事業は全面バックアップしたい」と表明した。

## 「外国人の滞在課題」

北部経済人 沖縄公庫と懇談



北部の経済振興で意見交換する出席者。9日、名護市のホテルゆがふいんおきなわ

【北部】北部地域の経済や産業の状況、ニーズの把握を図る「2016 沖縄公庫・北部経済チャリティー懇談会」（沖縄振興開発金融公庫主催）が9日、名護市のホテルゆがふいんおきなわで開かれた。本島北部地域の経済団体や企業の代表者と沖縄公庫側が今後の北部地域の経済発展に向けて意見交換をした。

名護市、恩納村、宜野座村の各商工会、名護市産業部、名護市観光協会、他、北部地区の経営者ら計11人が参加した。沖縄公庫は川上好久理事長ら5人が出席した。

沖縄フルーツランド（名護市）の安里博樹社長は、外国人観光客が午後2時ごろには引き揚げること言及し「北部にどのようなとどまってもらせるかが課題だ」と述べた。

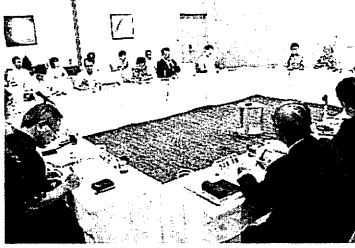
リフォーム業などを手掛ける仲屋商事の屋部憲史朗専務は「やんばるには若手経営者も多い」と話し、沖縄公庫側と意見交換ができるこの会が「いい機会だと思つ」と意義を語った。

沖縄公庫北部支店の融資実績が、前年同期比で約1・4倍になっていることなども説明された。

# 観光発展に支援要望

## 中部経済界 沖繩公庫と懇談会

【北谷】沖繩振興開発金融公庫（川上好久理事長）と本島中部地域の経済界による「沖繩公庫・経済チバリヨ懇談会」が10日、北谷町のヒルトン沖繩北谷リゾートで開かれた。参加者からは沖繩公庫に対し、観光産業の発展や海外展開、既存施設の活用などへの支援を求める声が上がった。



本島中部地域の経済振興について議論する出席者10日、北谷町のヒルトン沖繩北谷リゾート

中部支店の2016年度の上期融資実績は、前年同期比35・3%増の74億9600万円と大幅に増加。建設やサービス、卸売・小売などの業種が全体を押し上げた。年間実績では、近年は100億円前後で推移してきたが、16年度は過去最高の150億円に迫る見通しとなっている。

北谷町のホテル開発に携わる奥原商事の奥原輝夫社長は「町内では客室数が数年以内に二千数百くらいまでいく。公庫の支援があれば、街全体にいい効果が及ぶ」と街づくりへの積極的な関与を期待。沖繩商工会議所の新崎好子副会頭は「沖繩市内では、老朽化したホテルの活用が課題だ。改築や他のビジネスへの変更など、資金集めも含め指導を願いたい」と話した。

川上理事長は「相対として景況感は良くなっている。観光や建設が好調で景気の腰は強い。ただ、人出不足がよく聞かれる。この局面でどういう投資をするかが問われている」と語った。